

展覧会

版の愉しみ—日本の近現代版画—

会期 6月2日（金）—7月24日（月）

会場 山鬼文庫 <http://www.sankibunco.com/>

金沢市桜町5-27 電話 076-254-6596

入場 無料

開催趣旨

版画は古くから世界各地で制作されてきた手法です。日本では1920年代から自刻自摺による創作版画が新たな表現技法として登場しました。山鬼文庫コレクションから、さまざまな技法によるその歩みをたどります。同時に1953年金沢に誕生した北国版画協会の活動をご紹介します。

おもな展示作品 (1) 近代日本



岡本帰一《N.O.の肖像》1914



春村ただを《アイスホッケー》1936



石井鶴三《東京駅夕景》1927



長谷川潔《コップに挿した野花》
c1951



竹久夢二《春の精、愁》1918

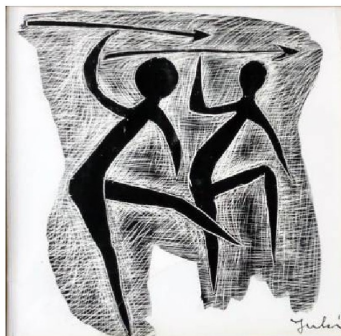


玉村方久斗《竹取物語》1932

(2) 現代作家



瀬川康男《ちよっときて》1996



桂ユキ《作品》c 1958

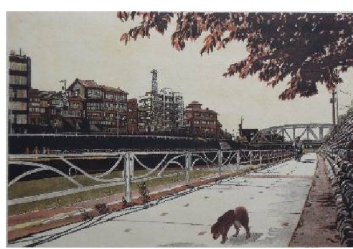


つげ義春《岩瀬湯本温泉》1991

(3) 北国版画協会



森嘉紀《宝船》1980



上田淑子《郷愁》1993



市川洋子《紫陽花》2004

金沢の戦後美術史を語る (2)

6月24日(土)午後1時より 山鬼文庫にて

高松久男(元会員)「北国版画協会の歩み」